

平成29年度

特別養護老人ホーム
岱山苑

事業報告書

平成29年度

岱山苑

ショートステイ

事業報告書

平成29年度 事業報告

前年度同様、要介護度、医療度が高い方の入所が増え、平均在苑期間は3年2ヶ月という入所状況の中、利用者・家族との関係づくりにも、より一層力を入れた1年でした。

入退所（入所24件、退所26件）・入退院総件数91件と月平均7.5名が何らかの動きのある中で少しでも空床日数を減らせるように早めの退院の調整と入所調整を図り、年間充足率 平均95.8%の結果となりました。

現在、100歳以上の入所者が5名、入所者平均年齢90歳の入所者構成の中、若年性認知症入所者（60歳）の受け入れも進めることが出来ました。

認知症ケアに関する専門研修や外部講師による苑内研修に取り組み、若年性認知症の特性の理解と対応について学びました。行動の理解や家族の希望を踏まえたサービスを今後より深くすすめていけたらと思います。

平成29年度の苑内での看取りは19名、入院治療中に亡くなられた方が8名、計27名とのお別れがありました。100歳以上の方が6名亡くなられ、親しい方との別れで喪失感をどのようにケアするか考えさせられました。また、終末期を医療機関に選択された退所はなく、まずは主治医と苑による緊急時・看取り時の対応を希望される家族が増えました。意向確認の場を適宜に作っていくことで、入所者本人の状態把握や岱山苑での取り組みに納得と理解を頂けているのではないかと考えられます。

開苑38年を迎え、居室や廊下の老朽化が目立つようになり、まずは東町の改装工事を行いました。新しい床頭台と居住空間に「明るくなった。広く感じる。」と入所者・ご家族から喜んで頂く事が出来ました。外部からの見学者も「きれいですね、38年経っている様には見えない。」との声も聞かれています。今後も西町、南町の工事も予定されており、利用者の生活に迷惑がかからないようにしたいと思います。

職員に関しては、介護職員の産休・育休からの仕事復帰や新しい職員の補充があり、日中を中心に充足してきました。しかし重度の入所者が増え、入浴日や食事時間を変更する等、安全を重視した業務の状況が続いています。職員も入所者中心の生活の流れを念頭に置き、「今だからできる」関わりの時間を時には家族を交え作っていきたいと思います。